

第2節 地域や家庭における環境教育や環境保全活動の促進

1 地域単位での環境活動等の推進【環境政策課】

(1)子ども船乗り体験の実施

子どもたちに本県の豊かな海洋資源に親しんでもらい感受性を育むため、平成21年度から「地域と共動した子ども自然体験推進事業」を開始し、漁船による漁業体験や高校の実習船による体験航海など、里海での環境教育・学習を実施しています。

参加した児童生徒は、越廼、美浜町、若狭三方の各漁業協同組合の体験漁船による定置網体験・漁場見学や、小浜水産高校実習船による航海体験、水産試験場調査船による乗船体験、東尋坊遊覧船を利用した地層学習などを体験しました。

平成25年度は44校、1,411名の児童生徒が船乗り体験に参加しました。

表5-2-1 自然体験実施場所別の参加状況

乗 船 場 所	参加児童数	体験内容
茱崎漁港（福井市）	87人	定置網体験
丹生漁港（美浜町）	161人	大敷網体験
小樟漁港（越前町）	39人	定置網体験
小浜水産高校（小浜市）	45人	航海体験
神子漁港（若狭町）	71人	大敷網体験
三方五湖（若狭・美浜町）	173人	自然観察
東尋坊遊覧船（坂井市）	802人	地層学習
その他	33人	漁業体験
合 計	1,411人	



船乗り漁業体験（越前町小樟漁港）

(2)環境アドバイザー制度*1

「美しい福井の環境を県民の手で守り育てる」ことを目的に、平成6年6月から、環境アドバイザー制度を導入しています。

この制度は、地域や学校、公民館、企業などが実施する環境問題に関する学習会等へ環境アドバイザーとして講師を派遣するもので、現在60人の環境に関する専門家が登録されています。

学習会等の内容は、環境問題やリサイクル、省エネ、自然保護などの講座や山や海での自然体験などがあり、皆さんに楽しく環境について学んでいただいています。

この制度により、県民の環境問題への関心や環境保全に対する取組みの意識が高まっています。

表5-2-2 環境アドバイザー利用実績

	24年度	25年度
派遣（紹介）件数	55件	65件
受講者数（人）	2,372人	2,504人

（注）平成25年度は平成25年11月末まで



環境アドバイザーによる学習会

分野別施策の実施状況

環境を思い行動する人づくり

*1 環境アドバイザー制度：環境保全についての有識者や環境保全活動の実践者を「環境アドバイザー」に委嘱し、公民館、各種団体や学校等が主催する環境問題に関する学習会、講演会に講師として紹介、派遣する制度です。

(3) SATOガール・SATOボーイ育成プロジェクト

県では、昨年度に引き続き、「SATOYAMA国際会議2013inふくい」に向けて、里山への関心が薄いと言われている若者を対象に、楽しみながら福井の里山の魅力、保全の大切さを学ぶ連続講座を開催しました。

昨年度から全12回を数えた「SATOガール・SATOボーイ」ワークショップでは、毎回、里山で実際に生業を営む方々を講師としてお越しいただき、福井の里山の魅力、多様な伝統技術について参加者と一緒に分かち合いました。



ワークショップ田んぼ 生き物観察の様子

表5-2-3 平成25年度「SATOガール・SATOボーイ」ワークショップ

テ　　マ	講　　師	内　　容
ワークショップ 田んぼ にほんの里100選の田んぼで田植えをしよう！	野村 みゆき 氏 (越前市エコビレッジ交流センター指導員)	田植え作業 田んぼの中の生き物観察 地元の材料でちまき作り
ワークショップ 田んぼ 田んぼの中の生き物たちの楽園を覗いてみよう！		田んぼの草取り作業 田んぼの中の生き物観察 草木染め・野草料理
ワークショップ 森 奥越の森で森と人との繋がりについて考えよう！	大竹口 茂 氏 (林業家) やまめの会	林業家の案内による森林散策 採集した材料での楊枝作り
ワークショップ 海 三国の里海で海女さんの話を聴こう！	大井 七世美 氏 (海女さん)	海女さんとの談話 アオサ海苔作り体験
ワークショップ 川 若狭の清流 南川のすべてを知り尽くそう！	富永 修 氏 (福井県立大学海洋生物資源学部 教授) 田原 大輔 氏 (福井県立大学海洋生物資源学部 准教授) 萩原 茂男 氏 (NPO法人森林楽校・森んこ 代表) 若狭河川漁業協同組合	源流部での森林散策 中流域での生き物観察・川漁師さんとの談話 下流域での湧水探訪

また、講座終了後には講師や著名人の方のご協力をいただき、SATOガール・SATOボーイの活動や感想、福井の里山の魅力をまとめた「里みずむ」を発行し、国際会議参加者へ配布しました。

里みずむ

福井県SATOガール・SATOボーイ育成プロジェクトの軌跡
The Track of SATO Girl's & SATO Boy's Growing Project



「里みずむ」表紙

ワークショップ山
森林散策ワークショップ海
海女漁の紹介

(4)こどもエコクラブの応援

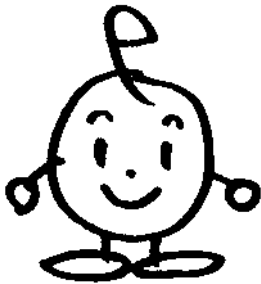
「こどもエコクラブ」とは、環境省が、子どもたちの主体的な環境学習や実践活動を支援している環境活動のクラブです。2人以上の幼児から高校生までの子どもと、活動を支える1人以上の大人（サポーター）でクラブを登録することができ、学校のクラスと担任の先生、家族単位、町内の子ども会など、気軽にクラブを作ることができます。平成24年度は13クラブ、937人の登録がありました。平成25年度は11月現在で9クラブ、767人が登録され、さまざまな活動を行っています。指導者がいない場合でも、環境アドバイザー制度（前述）には、こどもエコクラブの活動に対して、現地で子どもたちの指導・解説を行うフィールド活動応援の分野もあり、水生生物や野鳥観察、リサイクルの指導等、環境に関する専門知識や活動経験を有する60人が登録されています。

また、全国事務局では、こどもエコクラブを対象とした壁新聞コンクールを毎年行っています。平成24年度は、あわら市の吉崎赤手ガニ環境調査隊が、特別賞にあたる「早稲田大学賞」を受賞し、平成25年3月に東京で開催された全国フェスティバルに福井県代表として参加し活動報告を行いました。

なお、環境ふくい推進協議会では、こどもエコクラブへ支援を行っていますので、ぜひご活用ください。



あわら市の吉崎赤手ガニ環境調査隊の壁新聞



イメージキャラクター
「エコまる」

表5-2-4 こどもエコクラブ登録状況

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
エコクラブ登録数	32	39	37	70	47	27	13	9

(注) 各年度末の登録数を計上。ただし、平成25年度は11月現在の登録数。

(5)環境教育・学習の場

県の自然保護センターや試験研究機関では、環境に関する展示や情報の提供、自然観察会等の学習機会の提供を行っています。

表5-2-5 県の主な環境教育・学習施設

施設名	概要
自然保護センター (大野市南六呂師)	・県内の自然を紹介する展示 ・プラネタリウム、天体観測施設 ・自然観察会等の実施
衛生環境研究センター (福井市原目町)	・環境情報コーナーでの環境関連図書、ビデオ等の資料の提供 ・見学者の受入れ
総合グリーンセンター (坂井市丸岡町楽間)	・森や木とふれあえる遊び学べる展示 ・緑と花の教室の開催 ・樹木を知るためのグリーンアドベンチャーの実施
海浜自然センター (若狭町世久見)	・ふれあい水槽、若狭の海などを紹介する展示 ・自然体験講座の開催
内水面総合センター (福井市中ノ郷町)	・河川や淡水魚に関することなどの展示

(6)環境美化運動の促進

①クリーンアップふくい大作戦

地域の環境保全に関する県民意識の啓発を図ることを目的として、平成4年度から、県内一斉に住民が主体となって美化活動を行う「クリーンアップふくい大作戦」を実施しています。

平成17年度からは、県内全域にまたがる環境美化活動の強化週間を季節ごとに年4回設け、市町は自治会などと一体となって地域ぐるみの美化活動を実施しています。

②自然公園の美化【自然環境課】

自然公園美化思想の一層の普及を図るため、環境省では8月の第1日曜日を「自然公園クリーンデー」として位置付け、全国の自然公園を対象とした大規模な美化清掃活動を実施しています。

実施にあたっては、関係市町その他の団体との連携のもと、地域の一斉清掃などを行っており、平成25年度は、3地区の参加がありました。

③河川環境美化、河川愛護月間【河川課】

河川環境美化については、地域住民等と共動で「川守」推進事業を展開し、良好な河川環境の創出に努めています。

また、毎年7月の河川愛護月間には、河川愛護のパネル展を実施し、河川愛護に関する意識の啓発を行っています。



平成25年度クリーンアップふくい大作戦ポスター

<平成25年度実施状況>

○統一行動期間

平成25年6月2日～9日 環境月間
9月1日～8日 ボランティア月間
12月1日～8日 不法投棄等防止啓発強調月間
平成26年3月9日～16日 雪どけ後

○キャッチフレーズ

「生かそう 小さな汗 私たちの環境に」

○実施内容

- ・市町が設定した拠点地区等における美化活動
- ・民間団体や企業での、それぞれの団体活動を活かした特色ある美化活動

○参加人数 約106,118人 (24年度)

○県の取組み

- ・自然公園内の環境美化活動等の支援
- ・河川の清掃、草刈り、植栽等を行う活動団体への支援
- ・海面浮遊ごみを回収する海面環境保全事業